

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 浜松中国帰国者支援ネットワーク

1 事業の趣旨・目的

中国帰国者1世および子弟に対して、自らの生命の維持と安定した生活が営めるよう日本語学習を通じた支援活動を行う。また、地域における日本語コミュニケーションの実践(交流)を通して、地域社会に帰国者の存在を周知し、住民との相互理解を深める活動を行う。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
7月8日	浜松市多文化共生センター	小林 悦夫 柳沢 好昭 鈴木 修 高林 伸幸 鈴木 隆 野々山 勇 藤田 健次 袴田 尚子	事業計画について説明、話し合いを進め日程、場所、レール、対象、クラス内容について検討。	公民館まつり等の公民館や地域自治体、県や国の事業と連携したイベントも視野にいれて計画することが話し合われた。 帰国者が参加型コミュニケーションを学ぶ一環として、授業で外との関わりを持つ、イベントを開催する事を協議し承認された。
9月28日	浜松市多文化共生センター	小林 悦夫 高貝 亮 高林 伸幸 鈴木 隆 野々山 勇 藤田 健次 袴田 尚子 三浦 千尋 申 明淳	参加者が少ないことに対する打開策を検討。	学習者の生活状況、現在のクラス状況・カリキュラム、残りの授業について話し合いを行い、現状のままでは終わるのではなく原因を徹底分析して対処することを協議し、承認された。

12月15日	浜松市多文化共生センター	小林 悦夫 鈴木修 高貝 亮 高林 伸幸 野々山 勇 藤田 健次 袴田 尚子 三浦 千尋 片岡 玉代 申 明淳	教室の最終報告とその課題、今後の活動について議論された。	第2回運営委員会以降のクラスの様子、交流活動について報告し、講師が感想を述べた。また、今後の活動について協議され、バイリンガル講師とHICE職員による帰国者の声を聞く会の結果に伴い、新たな組織として活動をしていくことが承認された。
--------	--------------	--	------------------------------	---

【写真】



3 日本語教室の開催について

- ① 講座名 「中国帰国者のための日本語教室」
- ② 開催場所 浜松市五島公民館
- ③ 学習目標 地域の住民と交流をするための日本語会話を身に付け、自立した生活を行うことができる。

- ④ 使用した教材・リソース 自作プリント
- ⑤ 受講者の募集方法 帰国者支援員がいる区役所、バイリンガル教師が窓口となり、募集を行った。
- ⑥ 受講者の総数 20 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
- ⑦ 出身・国籍別内訳 中国人 20 人
- ⑧ 催時間数(回数) 60 時間 (全 15 回) 2 クラス
- ⑨ 日本語教室の具体的内容

●入門クラス

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語	教授者 補助者人数	内容
①	8月25日(木) 14:00~16:00	2時間	4人	中国・中国語	教授者1人	自己紹介&家族紹介
②	8月27日(土) 10:00~12:00	2時間	3人	同上	同上	営業時間を聞く
③	9月1日(木) 14:00~16:00	2時間	1人	同上	同上	バスの時間を聞く
④	9月3日(土) 10:00~12:00	2時間	1人	同上	同上	ゴミの日を聞く
⑤	9月8日(木) 14:00~16:00	2時間	0人	同上	同上	誕生日、年齢、来日時期を言う
⑥	9月10日(土) 10:00~12:00	2時間	0人	同上	同上	お天気の話をする
⑦	9月15日(木) 14:00~16:00	2時間	0人	同上	同上	感想を話す
⑧	9月17日(土) 10:00~12:00	2時間	1人	同上	同上	出来事を話す
⑨	9月22日(木) 14:00~16:00	2時間	1人	同上	同上	手段を話す
⑩	9月24日(土) 10:00~12:00	2時間	1人	同上	同上	買い物&値段
⑪	9月29日(木) 14:00~16:00	2時間	0人	同上	同上	ある・ないを話す

●初級クラス

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語	教授者 補助者人数	内容
---	------	-----	------	-------	--------------	----

①	8月25日(木) 14:00~16:00	2時間	4人	中国・中国語	教授者1人	自己紹介&家族紹介
②	8月27日(土) 10:00~12:00	2時間	2人	同上	同上	時間に関するあらゆることを聞く
③	9月1日(木) 14:00~16:00	2時間	3人	同上	同上	バスや電車に乗れる
④	9月3日(土) 10:00~12:00	2時間	0人	同上	同上	ゴミの日を聞く&謝る
⑤	9月8日(木) 14:00~16:00	2時間	1人	同上	同上	誕生日・年齢・来日時期を言う
⑥	9月10日(土) 10:00~12:00	2時間	1人	同上	同上	お天気の話ができる
⑦	9月15日(木) 14:00~16:00	2時間	1人	同上	同上	出来事を話す
⑧	9月17日(土) 10:00~12:00	2時間	1人	同上	同上	感想を話す
⑨	9月22日(木) 14:00~16:00	2時間	3人	同上	同上	ある・ないを話す
⑩	9月24日(土) 10:00~12:00	2時間	3人	同上	同上	いる・いないを話す
⑪	9月29日(木) 14:00~16:00	2時間	3人	同上	同上	許可

【入門・初級 合同】

回	開催日時	時 間 数	参 加 人数	国籍・母語	教授者 補助者人数	内容
⑫	10月1日(土) 10:00~12:00	2時間	9人	同上	同上	日本語カフェに参加
⑬	10月23日(日) 15:00~17:00	2時間	6人	同上	同上	お仕事会話
⑭	10月30日(日) 15:00~17:00	2時間	6人	同上	同上	病院会話
⑮	11月6日(日) 15:00~17:00	2時間	7人	同上	同上	ご近所会話

⑨ 特徴的な授業風景(2~3回分)

●第12回 日本語カフェへの参加 10月1日

10月1日(土)、五島公民館で行っている「日本語カフェ」に、課外活動として参加した。「日本語カフェ」とは、ボランティアの日本人と外国人とが自由に会話をするスタイルの教室で、五島公民館のみならず、何か所かの会場で行われている。この教室では、あくまで「おしゃべり」がメインであるため、授業内で、文法や語彙などを教える時間をとらない。そのため、まだ会話がかなり不自由な中国人帰国者では何も話せなくなる可能性があったため、その前週の授業を「準備」にあてた。

準備では、自己紹介と国の紹介を練習した。特に、国の紹介では「出身は中国の〇〇です」だけで終わるのではなく、北京などの有名な都市から近いのか、どんな気候か、有名な食べ物やお祭りはあるか、など、詳しいことまで説明できるよう、授業内で練習をした。また、写真があると話も弾むので、家族の写真などがある人は持ってくるように伝えた。

そして迎えた10月1日当日。普段から参加している受講生に、彼らが誘ってくれた受講生が加わり、9名の帰国者が参加した。初参加の受講生の中には、かなり日本語ができる受講生もいた。日本語カフェでは、いくつかのグループに分かれて会話をする。なるべく能力を均等に分けてほしい、とカフェの主催者側からの話があったので、それを意識して、3グループに分けた。教室に着くと、早速、グループごとにテーブルにつく。各テーブルには、日本人ボランティアの方が1～2名いた。また、こちらのスタッフも、どうしても困ったときの為に、各テーブルに1名ずつ、ついた。

話し始めは、全員、自信がなく、戸惑った顔をしていた。しかし、日本人ボランティアの方がうまく誘導してくださり、自己紹介を始めたあたりから、だんだん打ち解けてきた。ある受講生は言われたとおりに写真を持ってきており、それを見ながら、自分の家族を紹介していた。また、ボランティアの方が持参したパンフレットを見ながら、中国について話しているグループもあった。どうしても困ったときは、同じテーブルにいたスタッフが通訳をするときもあったが、全員、今、自分のある言葉で懸命に話そうとしていた。1時間半の間、とてもよい雰囲気でも過ごすことができた。

終了後、受講生に感想を聞くと、「楽しかった」「難しかった」「またやりたい」といった声が聞かれた。普段、あまり日本人と話す機会がない受講生にとっては、新鮮で楽しかったようだ。また、楽しいだけではなく、「伝えたいのにうまく伝えられない」という気持ちも感じ、「日本語がもっとうまくなりたい」というモチベーションアップにもつながったように感じた。また、一方で、「こういうイベントではうまく話せないから、もっと話す練習を教室でしたい」という声もあった。教師側も「教師ではなく、一般の人と話す受講生」の姿を見ることができ、今後、どのように授業を行っていったらいいかを考える、よい機会になった。

●第14回 病院会話 10月30日

日本語を学ぶだけではなく、各学習者が「病院」や「医療」について困っていることや、それに関係する悩みを学習者同士話し合い、解決方法としての日本語を探していく授業形態で、教師は脇役に徹し、学習者主体の授業として進めていった。

授業中は日本語のみに限定せず、各学習者の日本語能力に応じて、時には母語で話し合うこと

も良いこととした結果、終始リラックスした雰囲気の中話し合いは進んでいった。学習者の一人が悩みを打ち明けることで別の学習者がアドバイスをすることもあり、学習者同士の関係も授業を通して深くなっていった。

自分達自身が体験したことを思い出しながら、その時どういった日本語が適切だったのかをすることで、学習者の授業に対する関心や日本語理解度も一般的な「授業」での学習とは違うものとなった。



4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

中国帰国者が日本語を学ぶことによって、より生活上での豊かさを得られる活動を目標とした。受講者は20代～60代という幅広いものであり、レベルも個人によって大きく違っていたが、学習が進むにつれて受講者たちから学習ニーズが積極的に発言されるようになり、最終回に至っては、「～について学びたい」という明確な目標を彼ら自身が掲げ、それを学ぶことができた。また、受講者たちからは継続して学びたいという意向が強く、彼らたちも教室運営に自発的に関わろうという姿勢が見え始めた。このことは、受講者が日本語を学ぶことによって何かしらの効果を得られたと感じられた結果ではないかと考える。

② 学習者の習得状況

受講者の高年齢化のために覚えられる内容に限界があるようだ。また、短期間での習得をイメージした受講者は、途中離脱してしまう傾向にあった。しかしながら、若い世代の女性た

ちからは、普段の生活について日本語で説明をするという行為も生まれてきたため、一定の日本語能力を習得したように思われる。

③ 日本語教室設置運営の効果, 成果

受講者が居住する地域で開催することができ、その地域でブラジル人やペルー人が通う地域の交流型の日本語教室にも参加することができた。この結果、その地域に居住する外国人同士が顔の見える関係を構築するきっかけづくりともなった。

しかしながら、製造業で働く受講者にとっては、製造業の震災の影響による勤務日程の変更(土日出勤・木金休み)等で教室に通うことができなかった。

④ 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

NPOが主催する地域の交流型教室「にほんごカフェ」で、イベントがあるということを聞き、同じ日の午前中からその教室に参加してみるようになった。これは、同じ地域に住む外国人と日本人住民とが顔を合わせて、自分たちの話したいことについて、日本語を使って話しながら交流を深めるというもの。この教室に参加することで、もっと日本語を学ばなければならないと感じた受講者もいたようだ。そして、帰国者も他の外国人と話すことで、お互いに顔が見える関係づくりのきっかけとなった。

⑤ 改善点, 今後の課題について

a. 現状

東日本の震災の影響で、製造業に勤める受講者の生活は、勤務体制の変化によって予定していた教室に参加できなかったりした。突発的に起きる情勢の変化によって教室の運営が左右されることがある。

このことにより、受講者も自分の生活の変化に適応する必要があり、具体的にいつなら教室に参加できるのかということが決定されるまでに時間がかかってしまった。

中国育ちの帰国者子弟と日本人との間において双方の価値観が合わないところも多々あることから、受講者らとの意思疎通はバイリンガル教師が担ってきた。しかし、明確な答えや迅速な対応ができないことで、バイリンガル教師と日本人教師との間での意思疎通が円滑であったと言い難い。教室活動における教師間の連携は十分できているが、元来ニーズを把握するという意味でバイリンガル教師が日本人教師以上にもう少し受講者と積極的に関与することが求められる。

受講者からは、自らの高齢化を例に「長期的期間でのゆっくりとしたペースで覚えられるようにしてほしい」という要望があった。短期間がゆえに途中脱落してしまったという声もあった。若い世代の女性受講者たちからも続けて日本語を勉強したいという意向は強く、長期的な講座の開講が望ましいが、その予算の確保が問題である。

b. 今後の課題

①教室の恒常的な開講

受講者からの教室に対するニーズはあるが、本当に教室に通う意思があるのかどう

かが疑問に残る。このことは、当初、中国帰国者の相談員から 20 名を超える受講希望者リストをもらっておきながら、ふたを開けてみたら初回の受講者が各クラスたったの 4 人だったということで、主催者側である我々には大きな不安と負担をかけてきた。また、教室を開講するには会場確保も必要で、そのための費用も担わなければならない。そうすると主催者側に十分な予算があるわけでもないため、受講者に費用負担を担ってもらうしかない。その場合、また本当に授業に参加するのかがわからない。浜松国際交流協会の助成金を活用しようにも総事業費の 1/2 が限度額であり、助成金が恒常的にもらえるというわけではない。指導者側である教師からは最低限の謝金を必要とする声があがっていることから、完全は無償ボランティアで教室開講することは困難な状況である。このように教室開講のための予算確保は大きな問題である。

②当事者リーダーの育成

団体自体の組織力もまだ弱いなかで、中国帰国者および中国人当事者がどの程度、日本語教育の必要性を感じて自発的に関与していこうと考えているのが課題。お手伝いすることはやぶさかではないが、彼らをとりまとめて動かしていこうというところまでの考えには至っていない。フィリピン人やベトナム人など他国のリーダーが育つ一方で、中国人リーダーが不在であることは、非常に寂しいことである。国籍事情があるのか、とりわけ帰国者に対して卑下した感を抱く同国出身者もいることなどから、帰国者もしくは帰国者子弟自らが立ち上がる必要があるのではないかと思う。そういう意味で、今回参加した受講者のなかから 1 人をリーダーとして位置付け、彼を中心としたコミュニティに発展させていくことが望ましい。

c. 今後の活動予定, 展望

団体による振り返り会議を行い、これまでの課題について話し合いを設けた。その結果、まずは本当に教室を設置する意向があるのか、教室を開講した場合に、口だけではなく本当に参加する意思があるのかといった、当事者の声を聞く会を設けることにした。それは、浜松市と浜松国際交流協会の協力を得て、帰国者のための通訳派遣を活用しながら、国際交流協会の職員がヒアリングを行うというものである。

今後は、その結果を踏まえて、バイリンガル教師或いは帰国者リーダーによる会として仕切り直しを行い、教室運営を図っていきたい。また、これにより浜松国際交流協会との太いパイプを持つことによって、浜松国際交流協会が浜松市と推し進めている地域共生プランにおいて、遠州浜自治会から帰国者の生活マナーに対するクレームが起きていることから(例;子ども会の活動資金にしていた資源物を、資源回収日に資源物をすべて勝手に持って行ってしまう等)、国際交流協会側が彼らの実態を把握し、自治会と彼らをつなぎ合わせる役も担ってもらえるだろうと考える。つまり、中

国帰国者ネットワークは中国帰国者当人を中心としたグループにグループ化させ、浜松国際交流協会という中間組織を活用しながら、自治会と繋がり合うことを計画している。

⑥ その他参考資料

学習者アンケート(訳)

- ・先生方のご指導を感謝しております。続けて日本語の学習をしたいです。特に、苦手な助詞の使い方を勉強して、単語で会話するのではなく、正しい日本語で先生方と会話を出来る事が、私の願い(夢)です。
- ・日本語の学習を続けて勉強したいです。
- ・先生方の教え方は、分かりやすいとても助かった。これからも続けて教えて下さい。ありがとうございました。
- ・大変お世話になりました。お疲れ様でした。私はまだまだ日本語未熟者ですが、これからも私に日本語を教えて下さい。日本語で先生と会話出来る事を楽しみにしております。宜しくお願い致します。
- ・にほん。(識字能力がないため)
- ・形容詞、動詞の変化と助詞の使い方など先生方に正し日本語文法を学びたいです。
日常生活中、少しの単語しか話せないで自分の思い通りの言葉で表現が全然出来ませんでした。この度は大変お世話になりました。これからは日本語の勉強を努力し、一日も早く日本の文化を覚え生活習慣に慣れ、日本の社会に入り沢山の日本の友達と交流したいです。先生方とも友達になりたいので先生方の連絡先教えて頂きませんか？
- ・短い時間で大変お世話になりました。この三週間で、たったの6時間ですが、大変勉強させて頂き有難うございます。私の日本語を勉強するやる気が上がり、授業終わりの日から次の授業の日が来るのが待ち遠しい気持ちでした。
三週間日本語教室に通ってとても助かりました。私の生活に明るい光が見えました。日常生活中、楽しい事も増えましたような気がします。今までは、何も単語を覚えようとしなかった。もちろん、日本語の勉強をしようとも全然考えていませんでした。以前、毎日仕事が終わって帰宅してから、日本語の勉強も何もしないで、夜中までずっとパソコンの前で遊んでいました。この三週間以来、元々「おはよう」しかできない私は、勇気を出して話したら、職場で同僚との間で、少しずつ会話が出来とても嬉しかったです。日本でずっと生活していきたいので、日本語が上達にする事が、目の前一番大事の課題と思います。これからも私に日本語を教えて下さい。この三週間で、仕事、病院、ご近所の会話を勉強しましたが、まだ買い物、交通手段の会話なども勉強したいので、宜しくお願い致します。